

貨幣石（ヌムリテス）



Nummulites sp.

GSJ F17016

1 cm

石灰岩中の貨幣石（インドネシア、ジャワ島産）
横断面（左）と縦断面（右）の見える面

肉眼では観察しづらい大きさで、顕微鏡を使って観察するような生物の化石を微化石とよびます。微化石の中には有孔虫や放散虫、珪藻などがあり、地質時代を決定するのに有効な種類が多く含まれます。このうち有孔虫は、石灰質の殻をもつ単細胞生物です。有孔虫の中でも貨幣石は、*Nummulites*（ヌムリテス）という属名がつけられており、円盤状の形をして、ぐるぐると巻いた殻をもち、直径が1～2cmほどのものがよく知られています。外形がコインに似た形状であることから、貨幣石という和名で呼ばれています。この仲間は、サイズが10cmに達するものもあり、とても単細胞生物の微化石とは思えないものです。

貨幣石は、日本では古第三紀始新世（約5600万年前～3400万年前）の温かい時期の地層から産出しており、時代とともに環境を示唆する化石として知られています。貨幣石は海外でもよく知られており、エジプトのピラミッドやスフィンクスの石材となっている石灰岩にも含まれています。

貨幣石の展示は、第1展示室の「地質年代」のコーナーのほか、第4展示室の「古第三紀始新世」のコーナーにあります。

（地質標本館長 利光誠一）